



ピックアップ県立図書館

～予約棚～

借りたい本や雑誌が貸し出し中だった場合は予約でき、返却されて借りられるようになると1階の予約資料受取コーナーにある「予約棚」に置かれます。「予約棚」にはたくさんの予約本が置いてあるので、自分が予約した本を探すのが大変な時は、コーナーにある端末に図書館利用カードを差し込んでください。端末からは予約した本がある場所が分かるレシートが出てきますし、本が置いてある棚はランプが点灯しますのでそれを目印にして本をお持ちください。貸出処理はされていませんので、必ず貸し出し手続きをお願いします。また予約は図書館から連絡が来てから一週間たつと解除されて、本も予約棚から除かれてしまいますので、それまでに受け取りにきてください。



広域返却

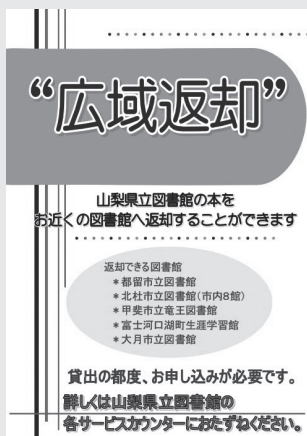
県立図書館で借りた本を、近くの図書館で返却できないか…そんな要望にお応えして、広域返却サービスを行っています。

ご希望の方は、館内ポスターで参加館を確認し、カウンターに広域返却利用希望とお伝えください。カウンターで貸出や返却についての説明を受け、簡単な手続きを行えば、ご自身が指定した図書館の窓口へご返却いただけます。

参加館のご理解とご協力をいただき、徐々に利用者も増えてきております。

遠方から県立図書館まで調べに来て本を借りた時、また図書館で開催されるイベントに来て借りたい本を見つけた時など、身近な図書館で返却できれば便利です。

詳しくは山梨県立図書館各サービスカウンターへお尋ねください。



Information

イベント案内

- 「こどもにすすめたい本2017」展示 4月22日(土)～5月12日(金)
- 「おんがくかいぶらりXI」デキシーランドジャズ 4月16日(日)
- 「シネマかいぶらり」上映会 5月14日(日)

編集後記

気づけば厳しかった寒さも和らぎ、だいぶ暖かくなってまいりました。昨年度同様、新年度も様々なイベントを計画し、皆様の期待に応えられるよう、力を尽くしていきます。

また、昨年末から山梨県立図書館公式 Twitter・Facebook を開始し、より早く当館イベント情報をお届けできるようになりました。ホームページからご覧になれますので、是非こちらのご利用をお願いします。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

(企画振興担当 長久保 秀美)



山梨県立図書館報

読書山梨141号

発行日 平成29年4月1日

発行：山梨県立図書館（かいぶらり）

〒400-0024 甲府市北口2丁目8番1号

TEL:055-255-1040(代表) 055-255-1041(施設予約) FAX:055-255-1042

URL: http://www.lib.pref.yamanashi.jp/

E-mail: ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp

阿刀田 高館長よりご挨拶

眠られない夜のために

初めは俳句だった。

—おれの好きな俳句、20句選んでみるかな—

布団に入り、眠りにつくまで、あれこれ考えてみた。芭蕉なら“あかあかと日はつれなくも…”であり、蕪村なら“菜の花や月は東に日は…”であり、虚子ならば“去年今年貫く棒の…”である。

次に短歌に移って、寺山修司の“マツチ擦るつかのまの海に…”を思い出し、与謝野晶子の“ああ五月フランスの野は…”は、忘れられない。(文字遣いの現代風はお許しあれ) 古いところでは和泉式部の“くらきよりくらき道にぞいりぬべき…”が好みである。

こんな試みをもう少し本気になって考え、一編のエッセイとし『日本語の冒険』という角川文庫の中の一章として収めた。

—次になにをやるかなあ—

好みのことわざや驚句はどうだろう。これは多種多様である。リンカーンの“40歳を過ぎた男は自分の顔に責任を持たなければいけない”は、その通りだと思うし、井上ひさしの“むつかしいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを愉かに、愉快なことを真面目に書く”ことは文章作法として胆に銘じている。

ほかに歌謡曲の名文句なども選べば、おもしろい。20が厄介ならベストテンくらい、眠られない夜には、いかがですか。



事業報告

講演会

大沢在昌氏講演会 [11月11日]

『新宿鮫』シリーズなどで人気の作家、大沢在昌氏をお招きし、講演会「ミステリーと私」を開催しました。講演では、作家としてデビューするまでの経緯や、デビュー後の苦労、『新宿鮫』誕生のいきさつ、また親交のあった作家生島治郎氏とのエピソードなどが語られました。講演の後には、阿刀田館長とのトークショー、サイン会を行いました。

参加者からは、「大沢先生の生の声が聞けて嬉しい」とのお声をお寄せいただきました。



トーク
ショー

角田光代氏×阿刀田高館長トークショー [2月18日]

『対岸の彼女』『八日目の蟬』などの著作で人気の作家、角田光代氏をお招きして、「角田光代氏×阿刀田館長のトークショー」を開催しました。本館1階のイベントスペースにて、260名の参加がありました。第一部は、角田氏の幼少期のコンプレックス、作家になると決めた小学校時代や、執筆を毎日5時には終了するライフスタイル、『八日目の蟬』を書いた経緯などが語られました。「作品は完成してからは作家のものではなく、解釈は読み手に委ねられる。」とご自身の小説観にも言及されました。第2部では阿刀田館長を交えてのトークで、角田氏が『源氏物語』の現代語訳に今後2年間をかけて取り組むことや、「作家と図書館のあり方」、「小説とは何か」などの話題が展開されました。

参加者からは「大ファンなので夢が叶った1日でした。」「飾らないお人柄がにじみ出るトークでした。」「作家の人間性に触れ、人生観を伺えた貴重な機会でした。」との声が寄せられました。講演の後には本の販売会があり、角田氏の作品を購入した方を対象にサイン会が行われました。



音楽

モーツァルト アンサンブル オーケストラ甲府公演 [12月24日]

平成28年12月24日(土)クリスマスイブの午後4時から、当館2階の多目的ホールにて、モーツァルト アンサンブル オーケストラ甲府公演が、開催され、286名の参加がありました。指揮は藤原義章氏、特別出演は山梨県内在住の小学生ヴァイオリニストの中嶋美月さんでした。演奏曲目はモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第3番ト長調や、交響曲第41番「ジュピター」ハ長調などでした。「図書館でこんなに素敵なコンサートが聴けるなんて、感動しました。」「クリスマスイブに上質な音楽が聴けて心が豊かになりました。」

「中嶋美月さんのヴァイオリン独奏は素晴らしいのびやかで明るい音でした。」と喜びの声が寄せられました。

館内ではこの企画に合わせてモーツァルトやオーケストラ関連の書籍、指揮の藤原氏の著作を展示しました。参加者は足を止めて興味深そうに閲覧していました。



朗読会

山梨芸術文化協会新春朗読会 [1月8日]

平成29年1月8日(日)午後1時30分から、当館2階多目的ホールで新春合同朗読会が開催されました。新春にふさわしく邦楽(尺八と琴)の生演奏「春の海」で108名の参加者を迎え入れ、会場は華やいだ雰囲気になりました。山梨芸術文化協会に所属する6つの朗読サークルが熱の入った朗読を披露しました。小池真理子作『赤いコート
の女』や芥川龍之介作『魔術』、古典の名作『竹取物語』など、朗読作品は多岐に渡り、各グループの特長を生かした、表現力豊かで変化に富む朗読会でした。参加者からは「会話の朗読があまりに素晴らしく吸い込まれるようだった。」との声が寄せられました。



資料展示
報告

資料展示報告

- 1 「フルーツ王国山梨」 【9月16日～11月27日】
- 2 「やまなし読書活動促進事業関連展示」 【9月29日～11月29日】
- 3 「山梨県出身の直木賞作家たち」 【12月2日～2月19日】
- 4 「宮澤賢治の世界 生誕120周年」 【12月2日～1月22日】
- 5 「富士山連携展示」 【1月27日～3月12日】
- 6 「ヴァンフォーレ甲府2017開幕戦関連展示」 【2月22日～3月15日】



やまなし読書人

大塚 茂 氏 (柳正堂書店 代表取締役)

皆さんは、本を読むときどこで読みますか？図書館、教室、リビング、家の学習机、食卓、通勤通学する電車の中、カフェの店内、それとも、もっぱら本屋の立読み派(笑)

本を読む場所、読む時間、人それぞれだと思います。でも、本好きなら、重厚な本棚に自分の好きな本を置き、本に囲まれ、誰にも邪魔される事無く、好きな本に没頭できる所を持ちたいと思ったことがありませんか。私自身がそう考えたことが、「マイブックカフェ書齋」の始まりです。書店人として、本を売るだけではなく、本好きが快適に、読書ができる空間をつくらう、山梨県にも本格的な「ブック&カフェ」をつくらう。黒を基調としたシックな店内、音を抑えたBGM、手元を明るく照らす照明、薫り高いコーヒーorシングルモルト。後はあなたの好きな本を持ち込むだけ、誰にも邪魔される事無く、読書の時間を楽しんでください。「マイブックカフェ書齋」は柳正堂書店バリオ店に有ります。